地産地消の家づくりに取り組む
大工・工務店

稲見建築設計事務所
有限会社岩木建設
梅田建設
株式会社大山建工
有限会社岡田工務店
有限会社キーポイントホーム
建築組パックス有限会社
企業組合県木住
有限会社桜庭工務店
せんだい建設株式会社
玉田工務所
1952HINOKIYA一級建築士事務所
株式会社ミヨシプラス

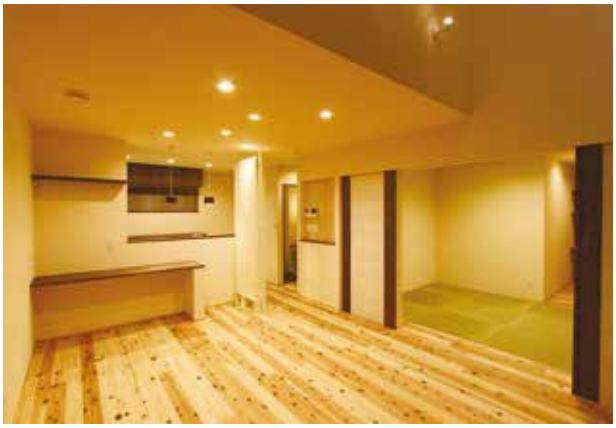
稲見建築設計事務所

稲見 公介 様邸

ユーザー訪問

DATA
青森市佃
2014年12月竣工
■延べ床面積／42.0坪（139.12㎡）
■使用青森県産材／ヒバ（土台、仏間床板）、スギ（柱、床、梁、外壁、建具枠）、ヒバ集成材（棚板）など。

2階の外壁は「木」だと分かるが、1階部分に張っている鉄板のような素材は何だろう？竣工したばかりなのにその一部にもう錆が浮いている。……小首をかしげる思いで稲見公介様邸の玄関前に立った。錆のことを聞いてみると、「そうです。錆です」とうなずいて、「ある程度まで錆びるとそこで止まって、あとはメンテナンスフリーになる『コールテン鋼』を使いました」と稲見氏。耐候性鋼板と呼ばれる仕上げ材のコールテン鋼は、表面の錆が保護膜となり内部まで腐食しないのが特徴で、建築や橋梁などに使われているという。2階の外壁に鎧張りしたスギ板に塗料の『ウッドロングエコ』を塗ったのも同じ目的で、「一定のところまで劣化すれば止まる」のだそうだ。一般に〝綺麗〟な状態が当たり前と思われる新築の家の外壁に、あえて〝劣化〟を採り入れた建築士のねらいをうかがった。



床には「スギ」、建具には「リンゴ和紙」、照明には「ブナコ」など"県産材"を採り入れた室内

変化楽しむ「朽ちる建築」〝完成〟がゴールではない

稲見氏の話　コンセプトは「朽ちる建築」です。綺麗な状態が家の「完成」ではありません。完成した時点が「劣化」のスタートと捉えるべきです。時間が経てば色が変わり、ヒビが入り、キズも付くし、錆も浮く。それはごく自然なことです。ヒビを嫌ってサイディングを張ったり、無垢材のキズを避けて化粧合板フロアを使う。自然界に存在しない、工場生産の既製品で家の劣化を防ぐという考え方は、自然ではありません。「木」も「鉄板」も時間が経てば変化するのです。

外国の伝統的な建築物から伝わってくる重厚さは、経年変化による味わいの深さです。古くなったら壊して建て替えるスクラップアンドビルドからはゴミしか発生しません。もっと経年変化を楽しもうと〝劣化〟を前面に打ち出した家にしたのです。

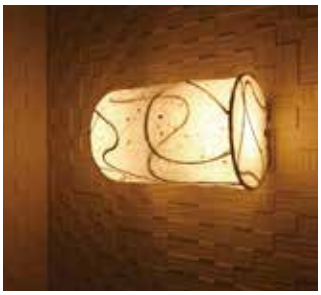
――リンゴ和紙など青森で生まれた工業製品も積極的に使われているようですが。

稲見氏の話　木だけが県産材ではありません。1階の洗面室の照明や、和室の建具に使って

いるリンゴ和紙も、リンゴの搾りかすから生まれた県産品（弘前市）です。リビングの壁の四角いニッチにも貼っていますし、その下地のマグネットシートも八戸市の塗装業者が開発したものです。照明器具にも県産品を使っていて、キッチンはブナコ（弘前市）、玄関は津軽びいどろ（青森市）、2階の寝室は金山焼（五所川原市）です。

階段の側桁（がわげた）（踏み板を受ける部分）のロートアイアンもそうで、東北で一人という優れた鍛鉄技術を持つ職人が青森市にいることを知らしめたい思いもあっていつも使っています。

――さきほど「使用青森県産



階段や照明にも県産の素材がふんだんに使われている

「木」と「モダン」が融合したリビング

材」をうかがったときに「アカマツ」がありませんでしたが、梁に使わなかったのですか。

稲見氏の話　使いたくても、使えなかったんです。注文したら、「製品がない」と。これではアカマツの需要が伸びるはずがありません。なぜ、いつでも注文に応じられるようにストックしておかないのでしょうか。それを言えば、「需要の見通しがたつならストックするけど、先が読めない」と答えはいつもこうです。売る気がない、としか思えない対応では県産材の普及なんてありえません。「だから私は県産材を使わない」のではなく、「それでも私は県産材を使いたい」から県産材を使って自宅を建てたのです。アカマツだけは、あきらめましたけどね。

電力使用量の見える化 ゼロエネルギー住宅へ

――これからの県産材住宅の在り方は。

稲見氏の話　「木」を見せすぎず、見せなさすぎず、絶妙なバランスの家づくり、ですね。「モダン」に、さらに「新しさ」も加える。でないと若い世代に受け入れられません。2階のリビングに『エコカラット』という吸放湿機能があるセラミックス内壁材を張ったのも、新しさの一つです。スギにも調湿効果はありますが、「木」を見せすぎないように、新素材を採用しました。それと、一つの照明で寒色系と暖色系の明かりに操作で切り替えられるＬＥＤ照明を各階の居室に付けました。作業するときと、安らぐときを照明の色でも使い分けます。

――エネルギーの〝見える

一部を吹き抜けにして採光を図った1階リビング

2階リビングの壁に張ったエコカラット

化〝が求められているようですが。

稲見氏の話　「ＨＥＭＳ」（ヘムス）といいます。住宅向けのエネルギー管理システムのことです。今、電気をいくら使っているのか――それを壁のモニターで〝見る〟ことによって節電の意識が高まる。法律で〝可視化〟が義務付けられるようになります。目的はＣＯ２排出の低減です。エネルギーを使わなければＣＯ２は出ません。そこで目指すのは「ＺＥＨ」（ゼッチ）です。ＺＥＨとは、１年間のエネルギー消費量がゼロの住宅のこと。まったく使わないということではなく、消費しているエネルギー量と、太陽光発電などによって創出されるエネルギー量が差し引きゼロ、またはゼロ以下になるという意味です。

ちなみにこの家（稲見様邸）はＺＥＨ、ＨＥＭＳにより２０３０年の省エネ基準に準拠（じゅんきょ）しています。

――勉強しないと付いていけなくなりますね。

稲見氏の話　通用しなくなるのは〝勘〟です。経験による勘。たとえば梁の高さを決める場合など、構造計算をしないで「梁が大きい、小さい」といった勘による判断はもう時代遅れです。世の家づくりは地球環境というグローバルな観点からＺＥＨに向かっているのです。旧態依然では、進化する家に置いていかれるだけです。

【間取り】ご両親と同居の二世帯住宅。１階はＬＤＫ、和室（コーナーに仏間）、水回り。２階はＬＤＫ、寝室、水回り。

「夏になれば涼しいベランダが仕事場に」と笑う稲見氏

Architecture Design Office INAMI

稲見建築設計事務所
青森市佃1-5-7
TEL.017-742-2636 FAX.017-742-2637
http://www.a173.org
E-mail : staff@a173.org

有限会社 岩木建設

山本 様邸

ユーザー訪問

DATA
むつ市大畑町
2014年4月竣工
■延べ床面積／40.0坪（132.49㎡）
■使用青森県産材／ヒバ（土台、玄関内壁・天井、リビング天井、トイレ内壁・天井、階段柱、2階寝室内壁・天井、下屋天井）、スギ（床、階段、建具、窓枠、下屋桁）、エンジュ（和室柱）、クリ（下屋柱）、ケヤキ（上がり框）など。

『いわ木の家』の特徴である「下屋（げや）」のある家が、むつ市大畑町に完成した。夏は太陽の位置が高いので日除けになり、冬は低く室内に陽射しが入る「下屋」。夏涼しく、冬暖かい――という省エネ効果ばかりでなく、深い軒が雨や雪から外壁を守り、家が長持ちし、青森県の気候風土に適応した造りをしている。㈲岩木建設の常設展示場にも、これまで建ててきたお客様の家にもあるこの下屋を、山本様も気に入り採り入れた。6寸角のクリの柱が4本、その上に8寸角のスギの桁を架け、天井にはヒバの羽目板。室外でありながらこれほど木を使った造りだ。室内はもっと豊かな〝木の空間〟であろうと、玄関ドアを開けたら、期待どおりに、清々しい青森ヒバの何とも言えぬよい香りが包み込むように迎えてくれた。

太い竹の物干竿が取り付けられた下屋

夏涼しく、冬温かい心地よい足裏の感触

ご主人の話　買い物に出かけたときに、ちょうどむつ市内の畑中さんの家（第5回あおもり産木造住宅コンテスト最優秀賞受賞）のそばを通りかかりました。畑中さんのお宅は以前、構造見学会で拝見していました。その際に、現場でお施主さんと面識がありましたので、少々ためらいはありましたが、インターフォンを押し、出迎えてくださった奥様に、「完成した家をちょっと見せていただけませんか」とお願いすると、どうぞどうぞと、気さくに迎え入れてくれました。夏の暑い日でしたが、家の中はスッと涼しかったのが印象に残りました。足裏が心地よい床板は、「無垢のスギです」と奥様が説明してくれました。

無垢材の感触は、岩木建設の展示場で体感していました。宿泊体験したんです。床も内壁も木で、肌にしっとり馴染む感覚が気に入りました。夏は柔らかな涼しさ、冬は柔らかな温かさ。この〝柔らかな〟ところが自

天井のヒバと床に張られたスギの風合いが暖かいLDK

然の木の特性だと岩木（勝志）社長が強調していました。

奥様の話　土地がここ（大畑町）に決まるまでけっこう時間がかかったんですけど、先に工務店を絞り込んでおこうと、インターネットで検索したら、岩木建設がヒットしたんです。もちろん岩木建設1社だけではなくて、木の家づくりをしている何社かがヒットしたのですが、展示場があり、大畑からいちばん近い十和田市ということもあって、休日に家族でさっそく見学に出かけました。

階段の7寸角の太い柱 子供たちが木登り遊び

岩木社長の話　山本様がご家族で来られたときに、お兄ちゃんが、リビングの柱をするすると登り、凄い！　うまいもんでした。お父さん（山本様）がレスキューの訓練をする姿を真似て、前に住んでいたアパートでもぶら下げたロープを登ってい

展示場のリビングの柱にするすると登ったお兄ちゃん

柔らかな陽光が射し込むリビングの吹き抜け

床にも天井にもスギが張られた子供部屋

たんだそうです。それで、山本様邸には、木登りできるようにと階段に7寸角の柱を立てました。

――木の家を建てようと思われたのは。

ご主人の話　子供たち（双子の男の子）にアレルギーがあって、自然の木を使うことが家づくりの第一条件でした。それに大畑といえば昔からヒバの産地として知られていましたから、ヒバにはとても愛着がありました。木肌の色もいいし、あの香りは心が洗われるような気がしますよね。岩木建設の展示場に体験宿泊したときに、通常は2階の子供部屋を宿泊室にしているんだそうですけど、そこから布団を降ろして、1階のリビング隣の「青森ヒバ部屋」でぐっすり眠りました。床も壁も天井もヒバの〝板の間〟で、ヒバの香りに包まれて寝るなんて初めてでした。それ以来、主人もわたしもすっかりヒバのとりこになったみたいで、自分の家はどの部屋もみんなヒバにしたいって思ったほどです。

美しい幾何学模様を織りなす建具のスギ

――どの時点で岩木建設に決めようと思いましたか。

ご主人の話　展示場を訪ねたときですね。応対してくれた岩木社長も、奥様の専務さんも、初対面でないような打ち解けた感じでした。第一印象の良さですね。木の香りも良かったし、無垢材の床の柔らかな感触も良かったし、ヒバの香りは特に良かった。ここに縁がありそうな気がしましたね。

奥様の話　下屋の物干し竿が、本物の竹なんです。ステンレスパイプの竿では木の家に似合わないと、岩木社長が10センチもある太い竹を切ってきてくれたんです。太い柱と柱の間に架けた太い竹竿がよく似合っていて、わたしのお気に入りです。

【間取り】1階はＬＤＫと、リビングの続きに和室、水回り。キッチンの両側からリビングを通って洗面所に行ける回遊動線が奥様のお気に入り。2階は、吹き抜けに手すりを回したホールを中心に主寝室と子供部屋2室。

建具に使用されたスギの木目が美しく映える和の空間

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

有限会社 岩木建設

坪 様邸

ユーザー訪問

DATA
十和田市一本木沢
2014年7月竣工
■床面積／平屋建て27.0坪（89.43㎡）
■使用青森県産材／スギ（柱、梁、床、キッチンカウンター、外壁一部）、クリ（玄関ポーチ柱）、カエデ（上がり框）、クワ（キッチンカウンター脚部、トイレ棚）など。

平屋で、屋根は切妻。右側の屋根を勾配なりに延長させ、軒の深い「下屋（げや）」にしている。玄関わきに山積みにしてある薪を、雪が降る前にその下へ移すのだろう。屋根の煙突が見える左側から、角度を少しずつ移動させながらカメラのシャッターを切っていく。その日、七戸町で開催された㈲岩木建設の見学会会場を撮影したあと、せっかくの上天気だから、外観を撮っておこうと、十和田市内に完成したもう1軒の岩木建設の新築現場を訪れたのだった。その家の施主が、チェンソーウーマンとして林業で活躍している坪様だと知ったのは、撮影の後日であった。

「家を建てたい」と相談 岩木建設へ足が向かった

坪様の話　今すぐではないけれど、ゆくゆく家を建てる計画はあったので、書店で目についた「家の本」（『青森県産材でエコな家づくり』）を、以前から手にとって眺めたりしていました。建てるにはまず何をどうしたらいいのか。土地探しはどうすればいいんだろう――それを相談しに岩木建設を訪ねました。たぶん「家の本」で岩木建設のページを目にしていたのがきっかけだとは思うんですけど、自然と足が向かったという感じなんですよ。訪ねた日に、専務さん（岩木勝志社長の奥様）が事務所にいらして、てきぱきと応じてくれました。

岩木専務の話　「家を建てたいんですが……」と突然、事務所に訪ねてこられたんです。今年（2014年）の2月でした。普通、建てる計画はあってもお客様は口にはしないものですが、坪様は、電話でもなくメールでもなく、ご本人が直接事務所においでになられたのですから、行動力の人だと感じましたね。すごいパワーの持ち主です。行動の人には行動で応えようと、その場ですぐに当社のユーザー

濡れた長靴を乾かせるように玄関の土間に設置された薪ストーブ

様のお宅へ車でご案内しました。外観だけでも見ていただこうと思いましてね。

――事務所の隣の常設展示場を先にお見せしなかったのですか。

岩木専務の話　展示場をお見せしてしまうと、展示場の造りがイコール岩木建設の家の造りだというふうに固定観念を持たれてしまいがちなので、家はお客様の要望によって1軒1軒みな違うということを理解していただくためにも、先にユーザー宅を見ていただくことにしたのです。

車でご案内しているときに、坪様が、「かちゃかちゃした家はいやだ」と言われました。四角い箱みたいな、何の変哲もない家が「かちゃかちゃした」という意味なんだそうです。それを聞いて、ピンとくるものがありました。坪様は、きっと「木の家」を求めている、と。味気ない「かちゃかちゃ」の家の対極にあるのは、味わいある「木の家」です。展示場がそれにぴったりの造りです。翌日、坪様に見ていただいたら、案の定、お顔にご満足の表情が浮かびました。

スギのカウンターがLDKのポイントに

チェンソーでスギ伐倒 林業に生きる道を拓く

坪様の話　ひと目見て、いいな、と思いました。木肌が見えるところがね。それに、薪ストーブも。わたしが林業の仕事

対面式のオープンなキッチンと天井の大開口部によって広々としたイメージのリビング

をしているから、ということではなく、もともと人間は生まれながらにして遺伝子に「木」が組み込まれているんだそうです。だから理屈なく木を受け入れるのだと。「火」もそうです。木や火に惹かれるのは本能なんですね。

——日頃、林業のどのような仕事をされているのですか。

坪様の話　主に木の伐採です。スギが多いですね。チェンソーで1日に70～80本くらい倒します。朝は4時半に起き、6時半まで出社して、7時には山に入ります。片手にチェンソー、片手に油の缶、背中には弁当を入れたリュックを背負って道なき道を漕いでいくのだから体力勝負です。女だなんて言っていられません。

——林業に入ったきっかけは何ですか。

坪様の話　初めはプロゴルファーを目指して上京したのですが、難関を突破できませんでした。選手にはなれませんでしたけど、インストラクターや、ゴルフ場を経営する企業の人材育成などに携わりながらゴルフ業界に20年ほど身を置きました。故郷の七戸町に帰ってきて、林業をしている人が身近にいたことがこの道に入ったきっかけですね。今はチェンソーでの伐倒が多いですが、夢は、林業機械の重機を操作して山に道をつけることです。その仕事

カエデを使った玄関の上がり框
タタキにちりばめた模様は金山焼（右）

地窓から柔らかな光が射し込む落ち着いた和の空間。「庭をつくって窓から眺めるのが楽しみ」と坪様

車1台置けるほどのスペースがある大きな下屋。冬はこの下に薪を積んでおく

は今はもっぱら男性の領分ですけど、女性の生きる道として切り拓いていきたい。

――薪の調達には事欠きませんね。

坪様の話　山から玉切りにして運んできて、斧で割ります。一冬ぶんを下屋の下に積んでおきます。

――下屋の出幅がずいぶんあるようですが。

岩木専務の話　外壁から3・5メートルあります。約2間で、車1台置けるスペースです。

坪様の話　雨を気にせずに洗濯物が干せるし、バーベキューも出来るし、重宝ですよ。家も気に入っていますが、この土地も、専務さんが情報を集めて見つけてくれたんです。

　相談をしに岩木建設へ足が向かったのは、〝縁〟が導いてくれたのですね。

【間取り】対面式のキッチン。リビングの続きに和室。洋間2室。水回り。濡れた長靴を乾かせるように玄関土間に薪ストーブを設置。

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906　FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

有限会社 岩木建設

寒い冬を暖かく過ごす断熱リフォーム

照井 勝行 様邸

ユーザー訪問

DATA
十和田市西二十三番町47-30
(有)照井自動車工業)
2014年9月竣工
■延べ床面積／100.0坪(331.24㎡)
■使用青森県産材／ヒバ(玄関の窓の建具、腰壁)など。

外観に新たに付け加えられた下屋

(有)照井自動車工業(十和田市)の広い敷地内に事務所と隣接して建っている照井勝行様邸。築33年で、大きな構えは約100坪。大工が木材にカンナをかけてはノミで刻みながら2年がかりで建てた、という。今年(2014年)、外壁の全面を(有)岩木建設でリフォームした。「壊してしまえば二度と建てられないほどに木と大工の技を凝らした家です」と岩木勝志社長。外観が新しくなったことよりも、県産材を手刻みして建てた〝本物の木の家〟を(『青森県産材でエコな家づくり』で)紹介してほしい――。玄関へ回ると、化粧垂木を見せた屋根の下に格子入りの4枚の引き戸が建っていた。さあどうぞ。戸が開けられた内側へ目を向けて、息をのんだ。

2年がかりで建てた家 大工が木材を手刻みで

ご主人の話　昨年(2013年)、台所をリフォームしてもらってから岩木さん(岩木勝志社長)とのお付き合いが始まりました。台所と納戸の仕切りを取って、今風なキッチンとダイニング、リビングに変えてもらったのです。今年は外壁の直しをお願いして、床や壁、天井に断熱材も入れてもらいましたので、今まで冬は寒くてたいへんでしたが、これからは暖かく過ごすことができます。

今、(照井自動車工業の)社長をしている息子が、異業種の経営者たちが集まる勉強会で岩木さんと知り合い、それがきっかけでお願いすることにしたのです。

岩木社長の話　リフォームといえば、古くなった部分を壊して新しくすることですが、照井様邸の場合は、既存の造りを壊さないようにするところが肝心です。今ではなかなか手に入らない味わい深い木と、すごい職人技を駆使して建てられているからです。見るだけでも勉強になります。

奥様の話　山から運び出した

丸太を、ここ(敷地内)に1年くらい積んでおいて乾燥させ、それを製材所で粗挽(あらびき)きした角材に、大工が1本1本カンナをかけて、外壁の板も1枚1枚削っては張っていくのですから、2年もかかるわけですよ。

ご主人の話　その頃(33年前)、私の父は整備工場のかたわら〝丸太つけ〟もやっていました。伐採した丸太を山から運び出す搬出のことを〝丸太つけ〟と言います。林業の会社から依頼されると、山に行って、伐り倒されてある丸太をクレーンで引き出し、トラックに積んで製材所に運ぶのです。よく私も手伝いに行ったもんですよ。今は、曲がりのある木はみなチップ工場行きで、建築用材としては市場に出回りません。でも、30数年前は、曲がり物のケヤキを上り框に使ったり、ヒバの丸太を床柱にしたり、木の自然味をうまく生かした家づくりがまだ残っていたんです。凸凹の木の表面を加工して寸分の隙間もなくピタッと納める腕の良い大工がまだいたということですね。この家を建てた棟梁がまさしくそうでしたが、亡くなってしまいました。代わりに岩木さんと巡り逢えたのでしょう。

玄関を入ると広々とした空間とオブジェのような木工品が出迎えてくれる

木の持つ自然味生かす 引き継ぐべき大工の技

――玄関土間に置かれている鼈甲（べっこう）のような黒い踏み台は何の木ですか。

岩木社長の話　ケヤキの「千年木」です。千年木とは、永いあいだ土の中にあった埋もれ木のことで、いわば木の化石です。神代ケヤキと呼ぶ地方もありますが、このあたりでは千年木と呼んでいます。こういう千年木も、凸凹したトチの木なども、最近の家づくりからは除外されてしまったというか、手に入らなくなったのです。照井様邸では、床柱に野趣に富んだツタウルシを使ったり、芯に穴があいたケヤキの千年木を輪切りにして階段手すりの飾りにしたり、随所に自然の木の味わいが見られます。大工の技があったからこそ生かせたわけですね。家全部が本物の木で出来ているから、古くなっても削りさえすればまた新しくなる。そこに木の価値があります。われわれが見ても惚れ惚れするほどの、これぞ木造建築です。

奥様の話　この家を建てた大工たちは休憩時間になるとよくノミを研いでいたものです。今ではそういう光景は見なくなりましたね。

岩木社長の話　工場でプレカットした木材を、大工が組み立てる建て方が最近では主流となっています。機械に任せていたのでは大工の技はすたれる

玄関の土間に置かれているケヤキの「千年木」の踏み台

伝統的な大工の技が随所に光る床の間

ばかりです。地域の山に育つ木も、大工の手から手へ代々継承されてきた技も、次代に引き継ぐべき財産です。当社の大工が、昼休みにノミを研いでいるのは、大工としてのプライドに磨きをかけているのです。

■㈲照井自動車工業
電話0176-23-2661

ヒバの丸太を生かした野趣に富む階段の造作

アートとも言えるような欄間の飾り

床下に断熱材を敷設（工事中）

外壁を全面的にリフォーム（工事中）

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

有限会社 岩木建設

座談会
「いわ木の家」を受け継ぐ 新人大工4人衆の心意気

参加者

三田　貴士さん
（19歳、十和田市出身）

武田　雅廣さん
（21歳、青森市出身）

佐々木　明人さん
（22歳、十和田市出身）

古屋敷　剛さん
（25歳、三沢市出身）

大工を目指す若者が減っている、とは聞いていたが、まさかこれほどとは思っていなかった。「19人なんです。たったの19人」（2014年）と訴える岩木勝志社長。青森県内で、大工になろうと職業能力開発校の木造建築科で学んでいる若者は19人しかいない、ということなのだ。そのうち3人――古屋敷剛さん、佐々木明人さん、三田貴士さん――が現在、岩木建設で見習い大工として働きながら七戸訓練校で技術の習得に励んでいる。加えて、すでに高等技術専門校を卒業し同じ岩木建設で働く武田雅廣さんの若手4人衆に、一人前の大工となって『いわ木の家』づくりを受け継ぐ〝熱き思い〟を語っていただいた。

大工になろう！と奮起 職安で見つけた「募集」

〈12月10日。午後5時30分。「新人座談会」――事務所の壁掛けホワイトボードにそう書かれてあった。「失礼します」と作業着の若者たちが入ってくる。接客用のテーブルを囲んで座った4人は、初めての座談会に緊張気味。その様子を、事務所の奥から岩木社長と専務（社長の奥様）が見守っている〉

――大工になろうと決心したのはいつですか。

古屋敷剛さん（2013年12月入社）　十和田工業高校を卒業して、東京の専門学校に進みました。学んだのは建築ですが、就職した会社は畑違いのトヨタ自動車（愛知県）でした。単純作業の連続で、内心こんなはずではと不完全燃焼の日々を送っていた頃、家庭の事情で地元（三沢市）に戻らなければならなくなって、帰郷しました。その頃です、自分は建築を学んだのだから大工になるべきではないかと思い始めたのは。ちょうど中学のときの知人が八戸市のある工務店に勤めていて、彼の紹介で大工として勤める

朝は7時に出社して作業場や事務所の掃除から始めるという

ことができたのですが、大震災の被災地での作業がほとんどで、目指す大工の姿とはかけ離れていました。地元で大工として働きたい、と三沢の職安に行ってみたら、大工を募集している工務店がありました。岩木建設でした。

佐々木明人さん（2010年3月入社）　三本木農業高校の農業機械科を卒業しました。地元企業の入社試験に失敗し、次はどこを受けようかと思っていたときに、高校の学年主任の先生が、ツテがあるという岩木建設に橋渡しをしてくれました。この4人の中では自分がいちばん長く勤めていますが、その間にまったく迷いがなかったわけではありません。勤めて間もなく、辞めようと思ったんです。言えば叱られますが、先輩たちの話す言葉が分からなくて、ついていけないと思ったんです。当時の自分にとっては深刻な問題でした。あのとき社長と専務が親身になって引き留めてくれたから、自分は今ここにいます。

武田雅廣さん（2013年8月入社）　普通高校に入って、大学に進んで、サラリーマンになる、というごく普通の将来像を描いていたんですが、高校受験に失敗してから、それまで考えもしなかった道を歩むことになりました。むつ市のむつ高等技術専門校に入って、木造建築と配管を学びました。そこを卒業しても〝高卒〟にはならないので、夜は高校の通信教育を受け、卒業しました。自衛隊に入ろうとしましたが、入れなかっ

訓練生3年の佐々木さんが製作するのは高度な「棒すみ」

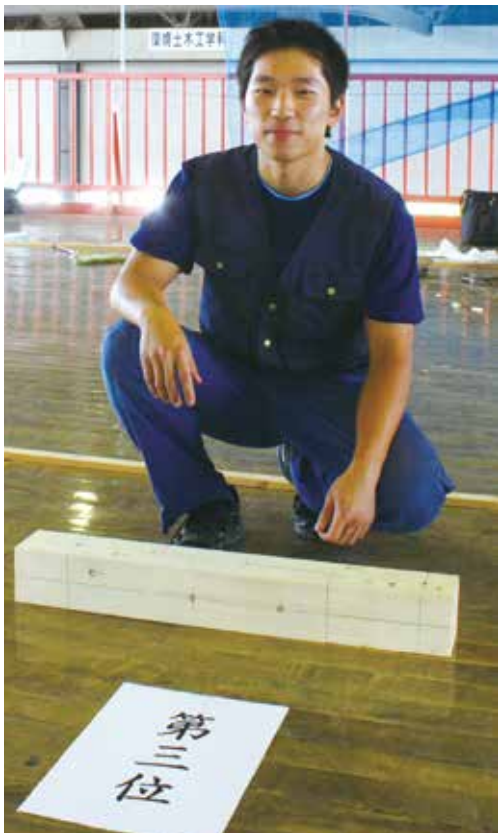
技能競技大会で「追掛大せん継ぎの製作」に挑む古屋敷さん

たことが、自分を大工に向かわせたのです。よし、大工になろう！　と職安に行ってみました。「募集」を見つけました。十和田市の岩木建設という会社でした。面接を受けたのが去年の8月です。

〈「武田君が面接にきたのは8月19日。わたしの誕生日だったからちゃんと覚えているよ」と岩木専務から声がかかった〉

三田貴士さん（2014年3月入社）　古屋敷さんと同じ十和田工業高校の建築科を卒業しました。小学校の頃から通学途中にある新築現場を見るのが好きでしたが、はっきり大工になろうと決めたのは、高校2年のときでした。軒や梁や母屋といった〝小屋組〟を作る「ものづくり若年者技能競技大会」で5位になったんです。8人中の5位だから上位入賞ではありませんでしたけど、かえってもっとうまくなろうと意欲がわきました。卒業したら大工になろうと、ネットで調べて住友林業が大工を募集しているのを知りましたが、学年主任の先生が、地元の工務店を強く薦めてくれました。それが岩木建設でした。学校に届いた採用通知を受け取ったときは嬉しかったです。先生も喜んでくれました。

〈三田さんは、県立青森高等技術専門校（青森市）で開かれた第56回認定職業訓練生技能競技大会（2014年9月）で3位に入賞した〉



第56回認定職業訓練生技能競技大会で3位に入賞した三田さん

目標の大工は先輩たち学び取って身に付ける

――墨付けをし、手刻みして、一人で家を建てられるまでには早くて5年かかるそうですが、当面はそこが目標となるのでしょうか。

古屋敷剛さん　はやく先輩たちのようになることが自分の目標です。仕事が正確で速いです。そうなれるまで何年かかるか分かりませんけど、一つ一つ学び取って身に付けていきたいです。

佐々木明人さん　自分も同じです。先輩たちはレベルが高いです。自分がとてもまだできないことを、簡単そうにさっさとこなします。同じレベルにはやく到達したいです。

武田雅廣さん　社長から聞いて、印象に残っている言葉があります。「木に向かって行け。木が教えてくれる」――社長が昔、弟子入りした師匠からそう言われたんだそうです。その意味を理解したときが、自分が一人前の大工になったときだと思います。負けず嫌いなので、人一倍努力していきます。

〈武田さんは、座談会の4日前（12月6日）に岩木建設が行った「木こり体験」にスタッフとして参加した。初めて手にしたチェンソーで丸太の輪切りに挑戦。「興奮しました」と頬を赤らめていた〉

三田貴士さん　将来的には一級建築士と一級技能士の資格を取得したいです。一気にそこまでは到達できませんから、一

つ一つ学びながらしっかり積み重ねていきたいです。

――社長から激励のメッセージを。

岩木社長　地域にとって大工は必要な存在なのです。地域の木を使い、地域の大工が、地域に暮らす人々の家を建てる。この循環が、昔から地域を守ってきたんです。当社が大工を志す若者を受け入れているのは、山に苗木を植えるのと同じ思いからです。新人4人も、地元にしっかりと根を下ろした大工に育ってほしい。

初めて丸太の輪切りを体験した武田さん

地元の木を使った家づくりをアピールするために岩木建設が開催している「木こり体験」。参加した三田さん（左）、岩木社長（左から3人目）、武田さん（4人目）、岩木専務（右から2人目）

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

梅田建設

M様邸

ユーザー訪問

DATA
青森市港町
2014年7月竣工
■延べ床面積／52.0坪（172.24㎡）
■使用青森県産材／天然青森ヒバ無垢材、スギ（2階内装）。

家の中に木が立っている――。木、といっても、柱ではない。階段を上がると、窓から明かりが射し込む多目的スペースの白い壁に、そのスギの木はすっくと伸び上がるように立っている。高さは約4メートル。樹齢100年ほどの丸太を、縦に厚く削って板にし、それを壁に張り付けたものだ。M様のご家族が〝2階の居間〟と呼ぶこの空間に、大胆にスギを立てたのは、梅田初男棟梁のアイデアである。黄色味を帯びたヒバと、赤味が目に柔らかなスギを融合させた「木の家」が完成するまでを取材した。

職人気質に惚れ込む おじさんが棟梁推薦

奥様の話　家を建てることになった発端は、わたしの母親の一言でした。すぐ近くの工場の2階で一人暮らしをしている母親が、古くなった風呂場が寒いと訴えるようになったので、「ユニットバスに替えるとかリフォームしたら」と勧めたんです。そうしたら、「どうせなら全部やりたい」と。全部とは、建て替えたいということです。でも、そうなると工場の操業をストップさせなければなりませんので、それなら、わたしたちが住んでいる倉庫のほうを建て替えたほうが話は早いということになって、それまで頭になかった〝母親との同居〟が急に現実味を帯び出したんです。

ご主人の話　梅田さんを推薦してくれたのは、妻の叔母夫婦です。梅田さんと同じ奥内の内（うち）真部（まんべ）に住んでいて、その叔母の隣家も梅田さんが建てたとのことでした。叔母夫婦というより、叔母の夫の、おじさんが熱心で、梅田さんの気っ風というか、職人気質に惚れ込んでいるようでした。梅田さんが建てたという町内の家を3軒ばかり、おじさんが案内してくれました。車の中から外観を拝見しただけですが、みんな豪邸でした。そのことよりも、同じ町内に何軒も建てているということはそれだけ信頼が厚い人なんだな、と感じました。評判が悪ければ狭い町内だからすぐ耳に入りますしね。

キッチンからリビング、仏間をひと続きにすることで広々とした空間を演出

天井と壁に天然の青森ヒバが張られたLDK。造り付けの棚もヒバ

奥様の話　わたしたち家族（主人とお嬢さんの3人家族）が住んでいた倉庫は鉄骨造りでした。その2階にいたんです。高いとは聞いている鉄骨の解体費用が実際どれくらいかかるものなのか、梅田さんに見てもらうことにしたんです。梅田さんが設計事務所の方を連れてやってきました。その方が、「こっちに建てたら」と倉庫の隣の更地を指さしたんです。その土地は、倉庫に荷物を運んでくる10トン車が停まれるようにと生前にわたしの父親が取得した土地なんです。言われて、あ

2階のお嬢さんの部屋。「すっかり気に入っちゃって部屋から出てこなくなった」と奥様

らためて目を向けてみると、家を建てるのに充分な広さはあるし、そこに家が完成したら移ればいいのですから引っ越しが1回で済むし、それに何より鉄骨の解体費がかからないことが魅力でした。

無垢のヒバにこだわる乾燥させてカンナがけ

――スギが立っている2階の多目的スペースはどのように使われていますか？

ご主人の話　〝2階の居間〟として使っています。1階の居間は家族皆のもので、2階は私のくつろぎの場ですよ。いくら妻の母親とはいえ一緒にいると私が気遣いするだろうからと、妻が、ほっと気が抜ける空間を造ってほしいって梅田さんに頼んでくれたんです。2階の搭屋の天井を吹き抜けにして、そこにちょうどいいスペースを確保してくれました。やはり長年家を建ててきた大工さんだけあって、うまいものですね。

奥様の話　壁に立っているスギ

家のシンボルになっているという壁に張られたスギの板。まるで立木のよう

は、梅田さんが以前、木材の入札で手に入れておいたもので、わが家を建てている最中に、この壁に立てようってひらめいたんだそうです。わが家のシンボルですよ。

ご主人の話　1階のトイレを、義母の部屋の隣に設けて、義母の部屋からも、廊下側からも入れるように2か所に入り口を付けてくれたのも梅田さんです。こちらが要望しなくても、脱衣所にも玄関ホールにも「ここにあったほうがいい」と手すりを付けてくれました。

奥様の話　職人としての梅田さんに触れた思いがしたのは、倉庫を見せてくれたときです。中にある木はほとんどがヒバだそうで、入った瞬間、あの清々しい香りに包まれました。ここで何年も乾燥させたヒバを使って家を建てているのだそうです。無垢材は反ったりねじれたりするので、乾燥させてからカンナをかけて使うんだ、と話す梅田さんが誇らしげでした。

ご主人の話　実は、梅田さんが〝ヒバで建てる大工〟だとは初め知らなかったんです。私も妻も、義母も。ヒバは高級な木だから、「大丈夫だべが」って義母が心配してね。見積もりが出るまで価格が気がかりでしたけど、梅田さん、頑張ってくれました。

奥様の話　1階の居間は天井にも壁にもヒバが張ってあるし、2階の居間にはスギが立っているし、家じゅうに木が見えるから知らず知らず癒されている感じがしますね。やっぱり梅田さん、おじさんが惚れ込んだ大工さんだけありました。

【間取り】1階は、床暖房を施したLDK。リビングの続きにヒバの一枚戸が建つ仏間。義母の部屋。水回り。2階は、主寝室と、お嬢さんの部屋。客室。多目的スペースにはご主人がくつろげる〝2階の居間〟。

青森ヒバの風合いが美しい1階の仏間（上）と2階の和室

梅田建設

青森市大字内真部字岸田21
TEL.017-754-3139 FAX.017-754-4522